

分かる快感!

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

年貢から地租に変わった

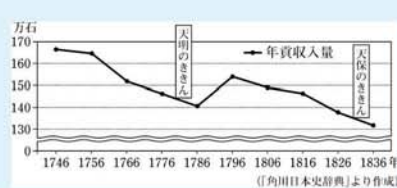
理由とは?

(2017年度 福井県立高校入試 社会)

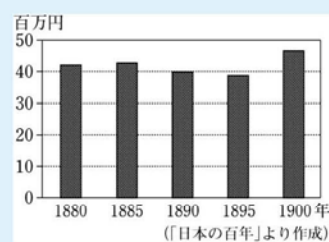


資料1は江戸時代に幕府が管理していた土地の年貢の収入量を示したもので、資料2は明治政府の収入のうち地租の額を示したものです。資料1・2を比較して、明治政府が地租改正を行った理由を説明しなさい。

資料1



資料2



古代より、政府は人々に税として年貢を納めさせていました。明治維新が起こり江戸幕府が倒れると、明治政府は今まで集めていた年貢を地租として改め、税として納めさせました。これが地租改正です。明治政府はなぜ地租改正を行ったのか、資料をヒントに見ていきましょう。

不安定な年貢収入

江戸時代の年貢は、全人口の多くの割合を占めていた農民に対して、彼らが持っている土地の収穫高に応じてその4~5割程度を納めさせるというものでした。年貢の問題点は資料1からわかるように、納められる量が年によって大きく変動する点にありました。資料1には天明と天保の2回の飢饉がありますが、いずれも大きく



イラスト・瑞木 匠

豊作・不作が年貢高に影響

量が減っています。収穫高に対する割合で年貢高が決まっていたため、豊作や不作の影響を受けて変動したのです。

また、資料1では飢饉以外の年も全体的に年貢高が減る傾向にあったことがわかります。江戸時代初期には貨幣は一部でしか使われておらず、米がお金の代わりに使われていましたが、江戸時代中期以降、貨幣でのやりとりが一般的に広まり、米の必要性が薄まりました。そうした変化を受けて、農民も米よりも高い値段で売れる特産品などをたくさん作るようになり、米の収穫量は時代を経るごとに減っていく傾向にありました。

江戸時代当初には、時代に合った税の制度であった年貢が、江戸時代後半には時代遅れの制度になってしまっていたのです。

安定した収入をめざした明治政府

明治維新後、政府は日本を西洋諸国と肩を並べられるような近代的な国にすべく、国づくりを始めました。それには、政府が使えるお金が必要です。しかし、江戸時代の年貢のように変化の大きい不安定な仕組みでは、何にいくらお金を使うかの計画ができません。そこで、明治政府は収穫高ではなく「地価」(その土地の価格)を基準にした税の制度を新たに作ったのです(地租改正)。

資料2には地租(地価を基準に決められた税金)の額が示されています。1880年代には米の価格が大幅に下がったり、1889年は凶作となったりしましたが、それらの影響を大きく受けずに安定していることがわかります。地価は年によって大きく変動しないため、地租も毎年安定した額が見込めるようになったのです。日本が明治時代以降に近代国家として成長していくうえで、政府に安定的な収入をもたらした地租改正は、非常に重要な役割を果たしたのです。(Z会・河原井彩)

! 今回の教訓

お金の使いみちを計画的に決めるためには、収入が安定していることが重要です。



河原井彩さん 2007年に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は中学生・高校生向けの社会科教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。